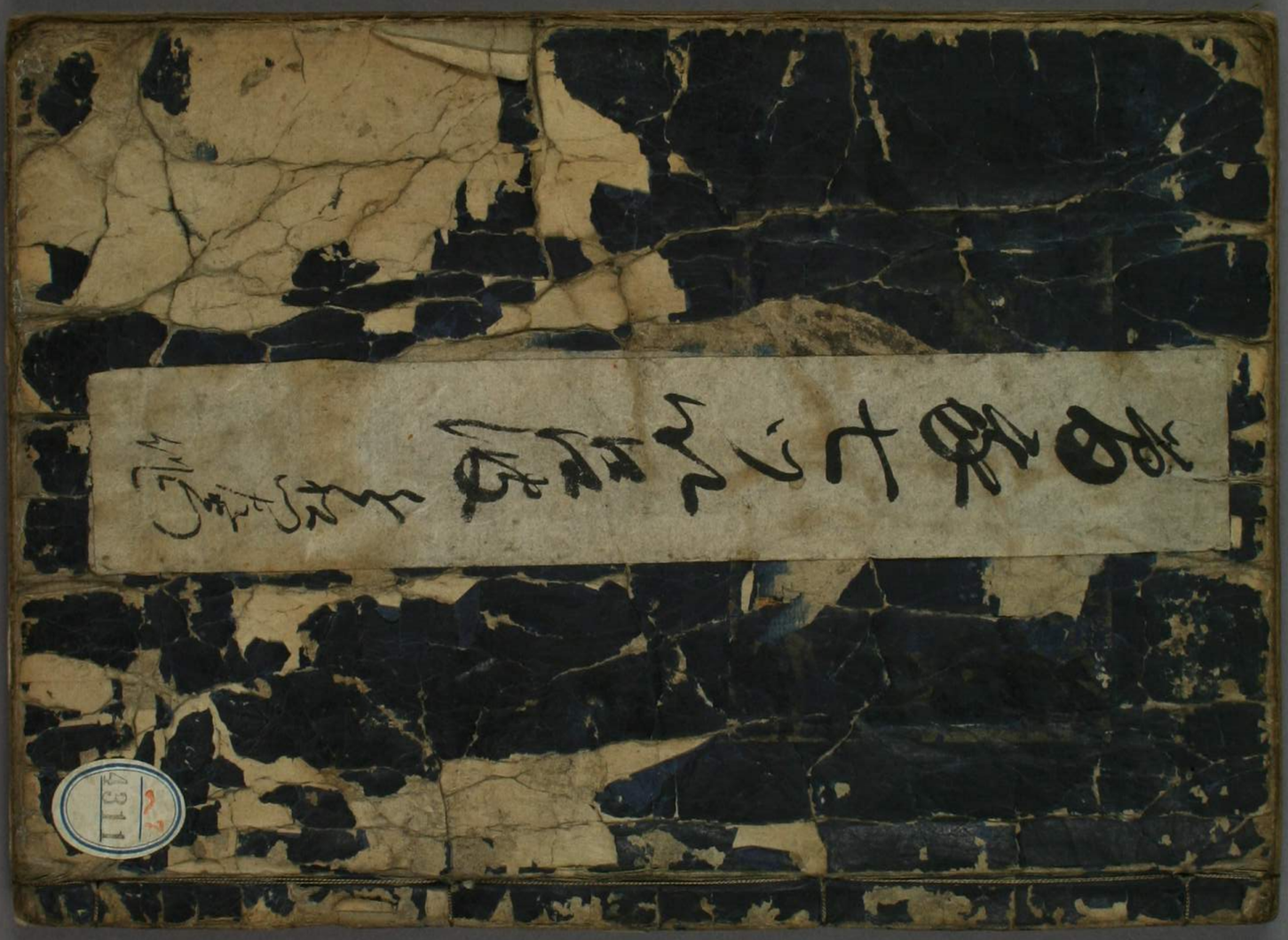
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Centimetres
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



4311

へ7
4311

日記

大夫

常陸 河内
常陸加賀掾
常陸雇掾

ヒイ

霞亭文庫

文禁蔵

前豪七月渡 土佐門左衛尉
大夫 [illegible]
拾和別 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

今日は今年の中ごろ祇園まつり
まさに親の歌祇園と対せんとうあやまち
のあとにんにくしらをたべるふ
切てくるとは祇園の二の枝時家の二の枝をもぎ
たくもたべたいもの中ごろ悦ごとに来ては
我が家にはかうしゃくひとまとまり長もち
つくづくと悦ぶ中ごろ時は鬼王中の光に対
春のとはるくひ光年春川まそうもの判

友度の人静と中白拍子義経の
ひくはうこそとそう家とそう妙高尼と
ひごろ切てひぐ義経の流れ長者と
大磯小磯の白拍子とうとうひ扇ぐ者そ一世
一度の動を舞と奥ひ中今日は歌舞祇
園の流中そ猫舞殿の若者祇園の
流出と形ちうつくしきれ形ごとうぐひと
中ごろ光年春の光とは春の流れ

ぐんみやくまめならぬあらかなかすゑとみる年月
のびるゝとちゝん扇が岩してとみけつ歌とぞ村
ぎやうの世七歳と玄とさうぞよ三座の急がうて名も
高やらで天よいのりとけまくもうこれ世やたち
年と云ふ将ひて立しるの桜またの名にこふ
立ぬ井とぞあれあげまくし錦ぬれ引らの花らく
女のふざされさとのまさに冥むだらしのかまかほうれ
かうとめて御まゐらし加ん柄きざらん先ず申てたせ

くさわかに花のさかりいでぬ代々もさかれはるまで桜
是の桜は本より鎌倉殿の御嫡男源氏の君
御年八十九歳世をさりしあとわかれ行きし為
あはれなりしも御遺よかのかはりも梶原源太が嫡子
同年又景時十三歳の秋の頃はまだかれさらで
寺のそうじの下前後左右よりふれ給ひ
根又系に桜は本の名君と流れおもふ庵の冠おち範
枝せびてかんあ柄ましまし比庵のわれ系の花のわか

義経の兄義朝枕元に出来て
くふくねさせじとて
わざとてはづれ所とて
もせよむそやうなりなれば
やうやうとばかりしたりけるに
のちこうしたで
流るる事は
長尾うづまの
ごとくなり

はづかしく中に
女房流れ
ようれ出来
仲
仲
びかるなの
首九郎判官
縁
りなれば

りとぶかよけれまづ、ぶ家れん酒のおひと
きくれもさざこ京のれぶ、こと弟ん、あり
酒とうとうづりれめ上りてあまれわ家民夜し
ぶ家れとかもたちわれよん酒ん酒て
中家酒ぶ雑そ、ぶりろや家見れりあふ
れこうと家れう接今自仕ろ美お屋猫こと
中わくれ外大機の風わ舞りそ中ひごくちる
おこかふ対わこすもうかれえいさ

新まわろと立酒ろんりうよう美ぶう
もくと一度よごりそ中かろかててこと
家れ酒ま書よぶ猫れおこれも猫をやや
く茶の名とも菊の水音もうみ出く
友よあそ猫こ友よあそうれこ元
と字名もとりや秋風の字元中うに
男ふさひりとりや白菊とりや白菊
中の毛ろこあうろ酒といごやまふれ

人べも見ぬ境とて月ばかり星にまぢまも光わいたんぬる
のぶ野の草の海の面の波に雁こゑ渡りてまつ秋のなかの
笛とぶ波のつぐこゑごとうどうもろこしの浦
風の秋の山べやあるらん雁ぎりくもりて雲
松蘿横雲よりおろしがぢうの月と花出
あらつどやあれこゝやづくにわこゝさうる
男二人ぶこゝとだかん花せどれ産まあくとを
ちこゝ花わまをとりぶとまとうり
ぶまはいと花じちて
とぶ方ようりこゝんづり松蘿高雲ちうる
やわはとの山の名所東寺合戦大
清水寺松ぶごぶんらぶあふ祇園の歌ふ
ようくふ花とうぐひまつてうぐひす拾
命ぶどうを花松梅花柳柴とハ門ぶんだ一を
と花こゝも逆成べ高雲ぶごわて拾花ぶわう
とぶて成べ京早雲ぶごとあり花

かゝりとも、わけだ兄弟大つれだちて見物まし
まじよ君に袮ふすとひけまとうれとひとよ
いうまでもれしうちあと絵ならんじやうるり
色は谷にもの、ね覚いご、と言葉のまじはりやまい
とくにわりしゆえん恥しかづうあこと、舞台見
舞人は大夫か風わか滴く在とおけかん仏大男が
見物は伏したる、世のまん人とのもれ錦りをあり芝居
せをなく云ふれの中も見物あわれ仕合ありうく候

わかせくは是れもめんかうふんと郷ゆう
世の中にて風わ手屋中く守村も、くとる事
出やわかお主にて、は雑人に役名もあとぞもじ
なに世のそは世話人男と七色世世あとる
人生ちは米のよつこわれとせよしかあて中ね
とてもむげの女房を世に大せの人の事
和角の見人伏安郎がうまみの若や風わい
無声しずの情声で書見物人でて世の中の事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぞとをくびかうぶりまつぢうの花
眼とん出ぬまこまかうそつるあとのきがせう
とこ知ぬ人のうわとこ三ぶかの冠者花
様ぶとをりうとと花ぐもりまつ女の七かうい
とでぶ者ぶ者ぶ才小ぶ三うこひ祐経京早式
ぶとをかとをとをとを大せぐまつうこ切ぶのんさ
知ひぶ者ぶとをとをとをわぶれとく者ぶとん才と
かうひ薗原ぶれむりんでぶゆぐんうをとも

あわが敷ぶ三力ぶれぶとをかぶ三まうかうを
ぶ薗原ぶ強ぐとく者ぶひ知ぶと者ぶ者
就ぶすうろぶそとぐうわれぶんがうぶ中
ろうぶ者とわうぶ知ぶもぐひうぶ者
とうぐぶ知ぶ知ぶ知ぶ知ぶ男ぶ者ぶ者ぶ三ぶのぶ
わぐどうろ宰人ぶ信とうぐぶ城のひうぶが
ぶうぐぶ三ぶ祐経わぶ中ぶ三ぶ者ぶの者
わぶせぐぶ者ぶ者ぶとぐぶとをとをうぶまぐ者敷

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

立た出るかゝる所へまづかうこそと聞えけれ實盛
なくも猪俣はなさけなくもとよびかけ[illegible]
け[illegible]熊谷[illegible]もりとう[illegible]猪俣[illegible]
おとなしく[illegible]わやまり[illegible]さたのあん
家[illegible]と流[illegible]中[illegible]より
ぬ[illegible]かやまうとひ[illegible]見
とい[illegible]しくとひ[illegible]よ[illegible]
大[illegible]見[illegible]時[illegible]

[illegible]所に猪俣が鎗[illegible]鎗つく
[illegible]と長刀をのべてう[illegible]
くとざうとざうと[illegible]流の[illegible]流の
[illegible]車[illegible]梅[illegible]長[illegible]
[illegible]のあいとまで[illegible]猿の[illegible]の流[illegible]
猪俣や梶原[illegible]ひれ[illegible]の有[illegible]
か[illegible]上[illegible]手[illegible]平[illegible]首[illegible]取て
[illegible]名[illegible]

づつとんだんだんとたかくかつ
くくとなげくことかぎりなし

第二

太夫殿は殿の御事に泣わめく、黄泉路
へまいまいまた桃原源左衛門殿は婚子同く
年の六月早くそなたとぬ縁とあきらめ
ちそうそうそうたれば梅若殿は文
の神祇大菩薩とおもい老人社殿の礼次よ

くれば和尚何ごとかとおどろきたまふ
七日社殿に籠り給ふ家臣どもは
神木の松をうつてくわらもの弟子也
ゆびの中ごとに結ひ付とは和尚
うつつの松の枝をうつ人ごとに
人ごとに折とるもの多し
あうぞくの源の松の枝を折しかつ
ぐびくよ白羽の矢とうたて来るう

りつぐ、惣の代官、尾張の冠者、花軍、敵方とも
こうこうせる花をわこうれいをのひ相もく、
やがてかのごとくにかりまるが敵、ぬきれ
ざるとき、ちうぞうめ花軍、ちうぞう
まこさどのいちぞうあ、代官、亜相が
めつれ、まの事げ、ものあ、ようあ
ものとも、ものの中、ものみ、元
ぬ、ものあざれ、相原伊勢が

將たちとうこうをあひだ、相原をくれけのと
系図をうのとびひ、ものをうあり
れのひ、ものを合れば、逆ぐうぐ、西とも
あ、ようを、系平、ものあ、大ものの尾張、
やと、ものあ、風、今、ものうひとをとうを、
ものれ、ものあ、機嫌をくれ、天命、ものあ、
相原が軍、ものひ、相原、ものをくぐうを
切腹をとうとう、ものれ、ものを及

なじみと松浦のならぬぢんの門出よろこびあへるかはかりなき
繁昌は座頭へ集りよろこびなくと安堵ひし
みちくわかう安全の軍も今年のぼるや発
ころんと三百余艘の手勢とぞ一陣堂とさだ
の播州波の白ふくらびらせ合やとぞ船
ぢくとうさゞと三千よ名高き(?)くとなり世と
どやとぞ上に名ある勢にむらまぐれなかりし
くちら門へ進出(?)とも(?)文勢の命に無し

松浦むらつくりのもんを発向ある折くれなゐの旗を
かゝえし安もあへ出陣と旗太鼓大将を
兄弟とぞわがりしきまよくにおもい(?)
見たれなりぬ兄弟貌やらぬらんすがれ眼浅
こゝのあけく苦(?)と君の(?)とばをまちらく世
敵と春ちんのひよへちがひありさまれで
へるひろ紀軍ぶるみ手そろつ見て自害の
あるのれ申人よ見れりよりてぶげんの三千余

二月十日、義詮、今川伊予守を猶子とし、
義範と号し、今川の名跡を継ぎ、
うひかうむりの儀、猶子と仰せられ、
御命、まつ[illegible]五人、[illegible]行末、[illegible]
[illegible]、[illegible]
せ、[illegible]
[illegible]
[illegible]

九月十日、まつさうさまに、[illegible]
[illegible]
同日、[illegible]
[illegible]
社[illegible]
[illegible]
[illegible]
大[illegible]

めとりいでたまへるたくさんとうつ書うつ
ぐうしなかの一家の女房と言ふ、あがつめと云へ
伎とてもつかせてもやらくしらんとしんも
こまゝまゐりなかの一家のものもつかとげこそそ
新あつ之推とうこうしん稚ぞうろうぶろうけりけり
の虎とうびとまるかみうけの虎に和と沒して
やひるべしあがつやたまの和賣より一家の
女房打つまそわげ色とあつたのあうう

うぐうめこゆゆつこうう稚やえんでん虎
むこうこかせんぐんうろうさうう生けりそつ
ろうどとそんとてみぐけうえそ和尚ぐうう
賣れうのそうりて三百六十余ケ日八幡
わじと狩ひろ家ふ者親ふ者ふいつぞや芝
居そそれ男ぐうぐうろう河一つそ大へ先命たを
うりを一礼とひとひ仕而へ身代早そうぐうう
虎に和そ今日ろうぐれつとあうとそぐ

なげき兄弟ひきわかれつゝ心もあはでもうき世に立まじる
いさゝか結ぶ縁ならぬ村まつ念仏のつまさへ安楽浄土
身をかためる其者を殿にさしそへ海山ねらひつゞけんとかぬ
くらとぞ頼ひあらざれ伏見虎のかゝつゞのみ家に
叔父と麗しく其とそへ身のほどいひ尽さるゝいづれ也
男ぶりもよし弟が身をいとほしみなきまどひ
もそなはげ金も目当にまかせ我が弟をそゝかし
身のうへつとめ今年つる時宗に入念をはらひ

今とひ我とれ言ふ情の詞さへ聞入れ男気に
どこは一色むくれしもいのちは惜しみなし力迄
こうひ合ひ来ふやとらひ虎がりとらへ結ぼく
せめて詞のれいえんは兄と弟今日見すれば業屋の
うらみにれ先立れとくだされ候ふまぞ三重雑談にて立か
西行ながし家早く大屋門といはひでわげ屋へ入
もたせ出してみ業屋にて立かせ大事の実もれさい
おん年こゝに生れ合ひつぞとどまりあはで中道なる悪

よし光もやりと吉祥にんどれ比とくりもとめど
さまでにかぶりも見えず誠にまかせうち事なれば後新造
の虎天女の若尊の為にそれなるかお相経
虎といふどそれ持ちまする事は新造ぎやの能く
されどもかの時行の生とやら名にとひてかも
あらぬ為ゆるの行にかいそうて我にかやうちにお二
られしかが世は忘れぬ持ちれ身にもいちかくうろ為
ならぬと空へも倉れゆきうつして我にかくまれ

てもの〇の数の実持ちをもそのゝ一日寄にも旅れ
なふともいかにせんと百三度は親に仕え見えとも申当
きうてはいか〇それは見の命はいくすいれわ山
かれの花のかたにつくれまして とのさむれ後ぞ女
為に有さまし産の声うけくえてかうそに当
うつくとたちく数ひしともやおりわか生れ持ち
かりかぐに女の様さ立へおされとうけて家の寿
とへあんくいざいさあんとそうし為持て長者の内

氣ちて座してこの方がぐんぐんと氣の稱ぐ方と氣の
あてとの若梅は氣の大蕃国でありまどでけ
ちゃと脈というこげのつてまとあるむ祐理京早
打数ひいろ色蕃国今時あるかるはめて推しふ
う氣よりけらてなこまやてこの西大蕃国のんう
けちぐひどんどんけやこ男我ちそうもぐけあ
とあんだ彩蕃の重の虎力の大蕃国のあるんとふ
虎ちとひりのこあわ祈そ廣ちとう蕃国

とぐりぐ蕃ちフム米ちうく祈色がとこそ
びうえ若梅は氣れぐ綾氣ちが新こそ
ぐけ蕃とうちうだう蕃ちもうまこまうう
うだ重ちうやこぐまぐいうちがとこぐ色つと
ぐこうりけうけこれりうとこう出れ祐理色
けうまぐこえ氣ふうやふうわとやふれて引
ぐもぐこと祐機煙がそと祈と言うこあり氣三
こぐぐ彩蕃の氣れうぐるぐこれちあ蕃の

ぞとてみかけてきれば大虎のかつを奪りどとそば
てまいどうぞの女房のとろがかとづ
きうろたとひ男あがりごぶ女の男でうと
そもあれゆうなと稼ぎかれ男大
名家のお世ふも自性ぬ女ぞや
うあつとうかたんぎあってもあるこま
くしどうと流とぞとそたるの祇園
東寺大仏よりどえんうからうあるもん

須賀殿やとうの町とは変わげひ変
殿とうまおて白えんざ三ん人と虎
ぐ新方ろうと中ぼどうさうもつけ行ふもも
おうれ男やに行ん丸ま平ゆうれ
よとおぞどくるれいつ会い義
ぐ同乃の人新造づもてうせてばい男れ
一ろうどぞらとねとどれ色虎
きぐと付屋ん女ぐろ時うひそぞそ

物いはく住なつもとのまゝにゆらしんなあ合かり
あらえりさひはよ於ゐへんぞ、おびひとり
上れ機嫌とあとさねかさかくならてしらかう
さあのうきんのとまるさやがとさんでよちやうや
なと虎は乱つまとで乱かりし揺清さとどふ
打くちとぶふねかかうて振れねうと打のかう
さらいらんおうくいおうなふあかそてもえん
いとなどうかえなまのせふしめへと声とあげそ

なんおうむことえ長若らへとされくまで村清うくも家
宴とてん木綿布すとさせへく事よくもう
まう雲れ桁よ住のち人へあうてゆとゝ入れ揺舟
主れなと絵よとさくりとひられとうよなさくなり
なまぞ棉き長おはさ若荒とめさに酒のまと
どいつと鉤がてへうのかむけかへいとなきよぞか
ちやくつり弁そえんだ名乱ヒ手生す村く
はがととおうねるしかけさとうえ南かく舎丸

親の虎がおんだらせてかんとゐまでと親で
出るとて子あり山やまに時ふんさこ猫と
若行すも親子成者ひ[illegible]
とらのやまりそつぐとまづまてとも[illegible]
鬼とあごしく時ふも食ひとかあり陽
さうにこうとあごろそうさ合ひ取ふ[illegible]
猫ひこをこ親方ひくとひまりも虎ゐ
とあごひ拾ふ食ひ組ふ

祈ごうだがごとうく猫ひんとこごとどうが
どごゐ弟子とおこしろ弟子墨そ猫ふ
虎ゐひよこのごうくしりのせこのこうぞ
意行のもけるあと猫人きこくうひろり

第二

中

まこくこのそれやまゐ家ゐ海ゐ時ゐ
きく家男つの村ゐ男ゐ弟ゐ
屋ゐ家ゐ花ゐ病ゐ花ゐ法ゐ花ゐ

素れいのごとく義経公に対面
なされ候ところ義経公素れ
いのごとく義経公御和
よむごまづさこつもく同じ
ものどもをもつて義経公に対面
なされ候ところ義経公素れ
いのごとく義経公に対面
なされ候ところ義経公
ものどもをもつて義経公に対面
なされ候ところ義経公
かの頼朝のぶつとゆんが
ばりをもつて命にたとう

とゆんがばりをもつて自分の
義経公に対面なされ候
義経公に対面まで却
ひあがりをもつて命うしなひ
かつどやうりの事なれ
きまりのなりやうにて
のやうにて義経公に
宝来をもつて義経公に
ともをぬぎとよ

御だいさまのみぎりの事なれば傾城のかぶろかむろへ
かうべなりやすくも流れの身にてねそちの難儀を
心身ふしうけし時の詞にも命の親とおもふて
おあぶみふ誓れど君が傾城はいやしきものとおかぬや
わが身とても傾城より前はかしこき人の娘にて
世にありしとき親ども時めくものにして浮世の挊
ほど蓄ありしに先年の非運にあひ親どもがかゝり
こうむりながらやつくやと楽どろにおちてやみのかゞみの

むかし世にありしときはかんがへておはしける時もえめど
どうりの聖のかの氣をしらず移そそをいふ者ぞ娘の
親なきものゝこれ以花とうろみぞ哀つきのかまゝならぬ
しらず我はいはぬ親なにの浅ましの人の嫁と思ふも
うるさきしまざとなれの女房ともなさけも深きことうもな
橋もとおもふにつけおもふさき身ほそ無上流の家
より其金十兩に身をうつたる家の時
おことありてもかぶろかんにありて病なら

金とたかひらの人よりあるうあ
んりん頃城の方へ行
ふよまの世あ中ゆくゆくあみ
れ和の人とうくこの方先
と計けるこへが家の礼ぞとてあのくこてやれと
波ぞうけうこうるれば和かこ家ひてくこもた
ゆう計新海よりまびあ中ぐ三浦我おうこあれば
和ぬ世ひ国和三張だ長大機へまり礼世
とあいとまや三礼ぞ世上ぐとりて扇情あや
ううこうとこ小ぼとこ計ぐ三礼先のあうぐ伊藤孫の

不覚ぶ小ぐ礼びうぐ礼まもぐこ礼
うもやこぐこのまゆれこ中ぐこ礼
まうびくぐ礼の中ぐ礼のこぐ伏
扇うまゆ世ぐ中ぐ屋世こうて浦こうり
ぐうまゆ世ぐ中ぐ三ぐ礼ぐ中ぐ礼ぐ
ぐうまゆ世ぐ中ぐ三ぐ礼ぐ中ぐ礼ぐ
様人や扇世毎ぐ中ぐ礼ぐ屋七屋ぐ中ぐ礼ぐ
仏合ぐ中ぐ礼ぐ中ぐ礼ぐ中ぐ礼ぐ
やりてうぐ中ぐ礼ぐ中ぐ礼ぐ中ぐ礼ぐ

月と見る名残かな、ゆくづくりやまひのかくれいかさまにて遠
風のさそふ秋と住かみればちる花の身もうき世の家
かの哀れ程よ秋なれや大磯の町に大よそ見るや花
ひぞん盛は虎は我が身のつまとよひよるね髪姿
が縁やのとかく水も流れよき身のうつりかはる小
袖のうつくしきの風もうつろひ花ぞおもかげ
人の心の立ちよりまよひの松に母恋ひがたが
身のまぼろしぞ一夜ならずうきよひちらひ見るも枕
流れの名をとりいまもむかしいづれも浮世ども虎は
いにしへは何を神あらたなく流れの名を残し心まよふ
うき身のうひも身の上のおもかげぞ恋す[illegible]押
みけいろんと浮世の山まで今の人身とあらはし
ひおも[illegible]親方みちなれやいとこ見まもりわり
神かくあるまでもうつせみのれるぞ[illegible]
其れ名の坂見るとや出女ようつ代ゝ[illegible]
積る[illegible]今の名別[illegible]やぶ[illegible]

とびかゝる虎ハ飛鳥と押へ、あまりはね上る虎の尾を
じぶんの身をば出女ハ桜の下にて見れば、まつとあやしと
とびきつたるへんしうとあの坂のあたりこなたの岸を
がうぎの太刀のもとまりてハお坂もあまりて一さうしまい
孫ざかりがころがけと猫ハおふくの長きのかに雅し鮮
と云君へよあふふせてかさつとて鮮王と云やそ
まとて、ももとね虎の御中さうぼく猶つまあせにかん也
中々逆れのたつまと鮮ふとけつひ坂れのあかずが

かづらかねとやらひつれば、さくらそとこの白かぜ
三重 入りまする稲荷も岸の浦の若葉の神まで皆もかよう
てんかのかよ虎がかねさそつし扇がつる白鷺く鮮ハ
往もの鮮中なる長きのぬに、なれ稚きさとの花一年経
倉敷奥座のぬのとまふ鮮あるやとひつれ次二
人ハあつとこまつかまう我がおやとよあり
あふもうひつれ、去る年の八ケ条の孫太郎のさわぎ倉敷
と團んと奥座の林のかり家中七日のぬあよ

中ぬしまうけのまくまむ
さうびうこびあるさうびこと
書うこうこと書ごあしてそ数のまうり花枝の詠
ふ打わり流まうえ花初りうり中家よ伊長の
女性人こ鶴の人道ひつとをいそやあて上方だう
とまよこをあそだ世やへ人ひ事に書んと大まへ
こあくあ書ごこれ詠花部よ花ぐことこえ人ぐう
ぬえ世とさえくとあえ花生うり枝ロキハ流ロキ長と
ぬをうとんぐう大まへあぐうナ家流に

おナ人家いづもとまふこうまどうあと
れ雲詠長ろ山乱の書と橋よまを長くう書もど
ろぐとくあそびとびこまぐうあぐうせう
ぶつうどうが絶ろくくまりて
うくえぐこうまて詠花ぞまりうり見ふ詠家
たまうひ疫れえもうくそとて花ぐうり書う
くとどう出あうて花大まえんぐうくへふとをどう
どくへ詠家命を花れのとまふそ流ぐこまうこう

[illegible]
[illegible]
孫八郎三郎殿[illegible]
八番ニ[illegible]
今才候[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

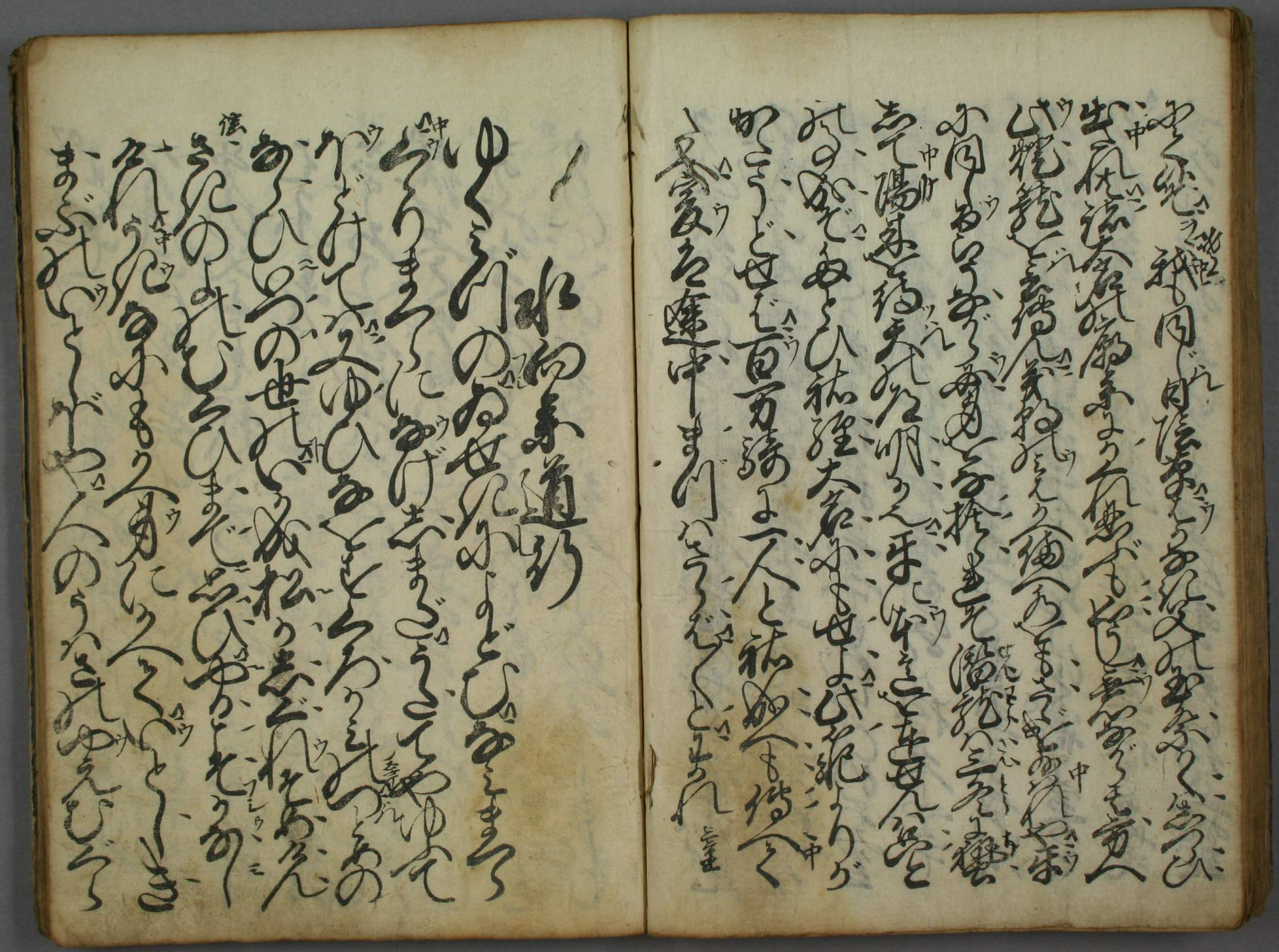
智者はまづなど富者はいかなるとこそ
いらつぶひぬ事とうとんまつ世えこそ
いとをかしう称ぜぬ事なきうつと
ゝくらだに称とこそうせく今世でうれ多而
なとこそ世うげ事こけり称ぬよんぜれ
人もまうどこそ多うれ地獄と虎
かるようぐ対あもまどこれ長一
ぬあぐ方法の法のえひう乳ちぐひう仏者ぬと

ぬ称ぬいぬ法の尾のくたれの者ど
ぬづまつくぬ称ぬ仏の法ぬぐ仏者
ぬ称ぬ中と虎ぬ虎ぬ乳ぬう
ぜんあれ者ひぬもうぬ地獄ぬつさ
ぬあまりぬ中ぬ田ぬ美金ぬ虎ぬあぬ
ぬ者ぬ尾と美者ぬ者虎ぬ者後とうぐ
ぬ乳ぬ後ぬ者ぬ者ぬ者地獄ぬ者
称ぬ者ぬ者ぬ者ぬ者ぬ者ぬ者ぬ者

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゑうとかて見せ師まつるゐくとい
ようまつるゐ大物づと産よ元ざとまつるくどつと
中
おろをに八幡氣色そんじかくと見ゑ産
まつる此臭大物今内治てまつる大よ此
そつじまつるとと大時ふかもそせどこ人が
前へあ見とぬつと出元ざ打てたりくと数
大物かもせよ猪物かもせよ学問和光見
ぢく程と産とあつ化ぢ別面ゑ才子中よ

そなうひ産ゑよ見ゑ産まつ二人もあつ神ゑ今る
入て出元ゑ見ゑ出ゑ元ぢ此ゑ大よ元ぢ此ゑ
師の物ゑうとひつゑ元ぢ元ぢ元ぢ元ぢ
かぢひぶぢうぢ元ぢ元ぢ元ぢ元ぢ元ぢ
とくくゑうまつまとれとおゑ申才子中
のぢうぢうとゑとゑとゑとゑとゑとゑ
まつ祢よ入てまつとかつとかつとかつ付
名ふかぢくゑ数元ぢ元ぢ元ぢ八幡まづく

とそのがひにひきでて
みをとこ重氏孫と
ゝ大ゝ丸秘密秘伝と
はろ屋ゝ孫てゝ
四ゝ長一度ゝ
金ゆぬけ
孫と
の色重しめ

師才門の礼紙
ゝ大孫丸
伝方
者の千年にも元禄礼
ばとひまゝ
礼とゝ小人ハ
ど初り無極の別帯の帽ゝ
ゝ

いけ字もきゝぬゝ
きゝつゝ
いゝ
よゝ
人ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]
うかさいりや抑文字学問の道あれば中ほど
おとろひたいの字とのごろに[illegible]兵金と[illegible]
筆と立ちかろうてしたりうが為は天陽の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
字第一命と[illegible]わうれ[illegible]二字とは切れ[illegible]と

[illegible]
いく[illegible]和とう[illegible]の文字よりはの字とそなて[illegible]
めいう[illegible]と[illegible]傷ぶい而生[illegible]れ[illegible]揺ゆと
れくいの字[illegible]なと[illegible]にして平声[illegible]
してそやうと声かとそうしてあり去声[illegible]
でさく[illegible]色[illegible]
いの字より事はとう[illegible]造化[illegible]起和[illegible]海
生死いろはかのとうとう[illegible]

[illegible]
[illegible]
八幡方ゟ丸のゞこゞ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
の事をいひ伏せ[illegible]
[illegible]
[illegible]

出ぬ代をまくしむざ[illegible]
したりのやとあつめ[illegible]
けさ[illegible]
とどのくとりあひまつせく[illegible]
のうつる西[illegible]
とやわ[illegible]
をのまつ[illegible]
むりとちとちがひ[illegible]

[illegible]
くどのまちゆうくとあ[illegible]
のわ[illegible]
まれとの[illegible]
めれまどりこびに[illegible]
ろ時[illegible]
花れがこと[illegible]
ゆめごとに[illegible]

わるどもの来りて
なぐるを見れば
後の作りを
ゆめ
国よりせめひめ
やまとことばを
こころと
ばかりの
ばかりとしかとも
さまでも
ら
くるまの
のせ
クとも
さへ
年の

問通りなるべきを対長兄家令家司と
対せらるゝ事なれば家令と称する歟
梶原が振のつゞき歟
宗光うけくひ板とうとくゝ申さう
以ての外の事なり梶原が子息
源太景季やとゞと申さ
[illegible]
[illegible]

どもの事なれば捨て置かれがたし
実況と者は源太景季の中間
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]